

福島県「郡山市・県南鯉養殖漁業協同組合」に支援金を助成

第2ステージ



福島県郡山市、県南鯉養殖漁業協同組合が一体となって取り組む「鯉に恋する郡山プロジェクト（鯉6次産業化プロジェクト）」の応援のため、日本財団の協力のもと、支援金を助成しました。

2015年11月25日

水産業

キリンビールマーケティング株式会社（社長 布施孝之）は、郡山市（市長 品川萬里）、県南鯉養殖漁業協同組合（代表理事組合長 熊田純幸）が一体となって取り組む「鯉に恋する郡山プロジェクト（鯉6次産業化プロジェクト）」への支援金として、総額1,000万円を公益財団法人 日本財団（会長 笹川陽平）の協力のもと11月25日（水）に助成しました。

原発事故により放出された放射性物質の影響により、郡山産の鯉からも一時的に放射性物質が検出される状況となりましたが、その後の検査結果で検出限界未満となり、以降、放射性物質は検出されていません。しかし、生産量は震災前と比較して大幅に落ち込んでおり、風評は未だ強く、震災前の状況まで回復していない状況です。このまま生産量の減少が続くと、後継者不足に拍車をかけ、産地の縮小や食文化の衰退を余儀なくされる可能性があります。今回のプロジェクトは、復興事業の位置付けから、事業主は県南鯉養殖漁業協同組合だけではなく、郡山市が事業主体者としてプロジェクトの統括を行ない、一丸となって進めるプロジェクトとなっています。今までの郡山市の「鯉」のブランドを消すこと無く、新しいブランドである「鯉に恋する郡山」という地域ブランドを立ち上げ、歴史ある特産品であることを強みにして、「郡山市の鯉」の復活と継承、そして新たな食文化の創造を目指します。

今回の助成は、風評の払拭を図るのみならず、「鯉」が持つ機能性に着目した新しい機能性食品と市場ニーズに応える食品の開発を行うことで、地域に新しい特産品を生むだけでなく、関連する産業を創造し、雇用の創出を目的とするもので、鯉の機能性成分分析調査、新たな商品開発、ブランド開発、販路拡大、販売促進、担い手育成研修などに活用されます。



復興応援
 キリン
 絆プロジェクト

笑顔で結ぶ。人を、日本を。